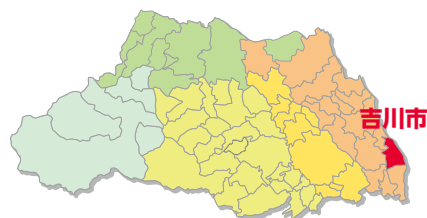


県内首長インタビュー④

吉川市 中原 恵人 市長 (45歳)



4月に市制施行から20周年を迎える吉川市。  
若きリーダー中原恵人市長は、輝く未来に向けて全力投球で邁進中！

吉川市は埼玉県の東南部に位置し、東京都心から約20kmの距離にあります。吉川市の前身である吉川町は、1955年に旧吉川町・旭村・三輪野江村の合併により誕生しました。その後は、交通環境や宅地整備が行われて、1991年には人口が5万人を超え、1996年に吉川市が誕生しました。施行後も武蔵野線の吉川美南駅の開業など、より便利な交通環境が整備されたこともあり、人口は毎年増加を続けています。全国的に人口減が進むと言われる中、吉川市は人口の自然増が続いており、現在の人口は7万人を超えています。

■新しいコミュニティタウンの誕生

2012年3月にJR武蔵野線の吉川駅と新三郷駅の間に吉川美南駅が開業して今年で5年目を迎えます。現在、JR吉川美南駅西口に接する約28.8haの武蔵野操車場跡地地区は、

土地区画整理事業や街路、水道、電気、ガスなどのインフラ整備が行われ、商業施設や住宅の建設が進んでいます。また、隣接する約82haの吉川駅南地区については、独立



永田公園には、よしかわ富士があり頂上に登ると市内を一望できます。天気の良い日は富士山や筑波山、東京スカイツリーが望めます。

行政法人都市再生機構によって土地区画整理事業が実施され、公園、住宅の整備が進み、2013年4月には美南小学校が開校されました。吉川駅南地区における計画人口を9,200人としており、人口増加に対応した新たな市街地の形成を進めています。

吉川市には、1989年に開発された総面積約62.6haの「きよみ野」地区があります。きよみ野地区は「人にやさしいまちづくり」をコンセプトに誕生し、市民交流センターおあしすや公園、商業施設などが立ち並んでいます。

■豊かな河川とともに繁栄したまち

吉川市は豊かな緑の河川など自然に恵まれたまちです。特に中川と江戸川の2つの河川に挟まれた地形を生かした独自の文化が育まれましたことでも知られています。



手刈りによる収穫を行っている稲刈り体験。市内では吉川産米を使用したせんべいや日本酒（なまず御前）も販売しています。

江戸時代に進められた新田開発で、「二郷半領」と呼ばれた吉川周辺は、有数の水田地帯となり、市の北部や東部を中心に「早場米」の産地として栄えてきました。そしてその収穫米を江戸に運ぶため、中川を利用した舟運が発達し、吉川河岸・平沼河岸は物資の集積地としても繁栄してきました。

現在も稲作が盛んで、豊かな水は、米以外にも野菜の栽培に大きく貢献しました。その中でも「夏ねぎ」は、巻きが固く、調理の際



吉川産の夏ねぎは、県唯一の指定産地となっています。



上段左から  
「伝統の川魚料理」  
「なまずのたたき」  
「冷酒なまず御前」

下段左から  
「なまずどら焼きとサブレ」  
「なまず饅頭」  
「なまず煎餅」

に煮崩れしないなど、その品質と味の良さで高い人気があります。明治時代の初期から栽培されており、毎年、初夏にかけて出荷されます。

中川と江戸川からは、川魚も豊富に採れたことから、食文化としての川魚料理もこの地に根付いています。「吉川に来て、なまず、うなぎ食わずなかれ」とも言われるほど川魚料理は有名で、特になまず料理は400年の歴史を持つ吉川市の郷土料理となっており、歴史上の著名人なども食していると言われています。市内の割烹、料亭でなまず料理を食べることができ、伝統の味を繋いでいます。

2000年に埼玉新聞社が募集した「21世紀に残したい・埼玉ふるさと自慢の百選」では、「吉川市のなまず料理」が最多投票数を獲得し、県一番の自慢料理に輝きました。20年ほど前には、地下水での養殖に成功し、良質な吉川産なまずが一年を通じて出荷されています。

古くから親しまれてきた「なまず」は、市のイメージキャラクターとなり、なまずをモチーフにした饅頭や煎餅などのお菓子や食品から、日本酒などの地酒、ぬいぐるみ、キーホルダーなどの商品まで開発され、市のPRに大活躍しています。

また、吉川駅前には、金色のなまずのモニュメントが置かれ、吉川市のシンボルとなっています。さらに昨年末には、飲食店検索サイトの検索キーワードと44媒体のメ

### 吉川市の概要

人口(H28年1月1日-住民基本台帳-)	71,048人
世帯数(向上)	28,289世帯
平均年齢(向上)	42.07歳
生産年齢人口比率(H27年埼玉県(丁)字別人口調査)	63.7%
面積(統計書よしかわ平成24年度版)	31.62km <sup>2</sup>
名目市内総生産(H24年度市町村経済計算)	1,415億5,800万円
製造品出荷額等(H25年工業統計)	760億7,108万円
事業所数(H26年経済センサス)	2,162事業所

ディア関係者の審査による「2015年今年の一皿」の大賞候補に、吉川市の「なまずの蒲焼」がノミネート(全6品)されるなど、「吉川市のなまず」は、全国的に認知されるまでになりました。

### ■市制施行20周年、価値ある未来を共に

吉川市は1996年に誕生してから今年で20周年を迎えます。その記念すべき年を祝うため4月に記念式典が開催されます。

また、吉川市のこれまでの発展の歩みを振り返り、先人の功績に感謝するとともに、新たな未来へ歩みを進めていくために、吉川市全体が一丸となって様々な記念事業を実施していく予定です。

45歳の若さの中原恵人市長は、県議会議員として4年間活躍した後、2015年2月の市長選で初当選しました。中原市長は、大学在学中から不登校や引きこもり問題に積極的に取り組んでおり、その後も多くの子どもや青少年たちと向き合い、共に過ごしてきました。

市長選では、毎朝駅に立ち、市内を自転車で回るなど、市民一人ひとりの声に耳を傾け、一人ひとりに届くように訴え続けてきました。その結果、投票率は前回は10ポイント近く上回るなど、市政への関心の高さを反映したものとなりました。

「価値ある未来を、共に」をスローガンに掲げる中原市長は「市長キャラバン」や「どこでも市長」を展開し、市の重要課題(3大テーマ)である「市庁舎建設」「仮称第4中学校建設」「吉川美南駅東口整備」について、今後の方向性を決定しました。本年は、これらの実現に向けて邁進するとともに、市制施行20周年の記念すべき節目の年でもある吉川市が大きな注目を集めることになりそうです。